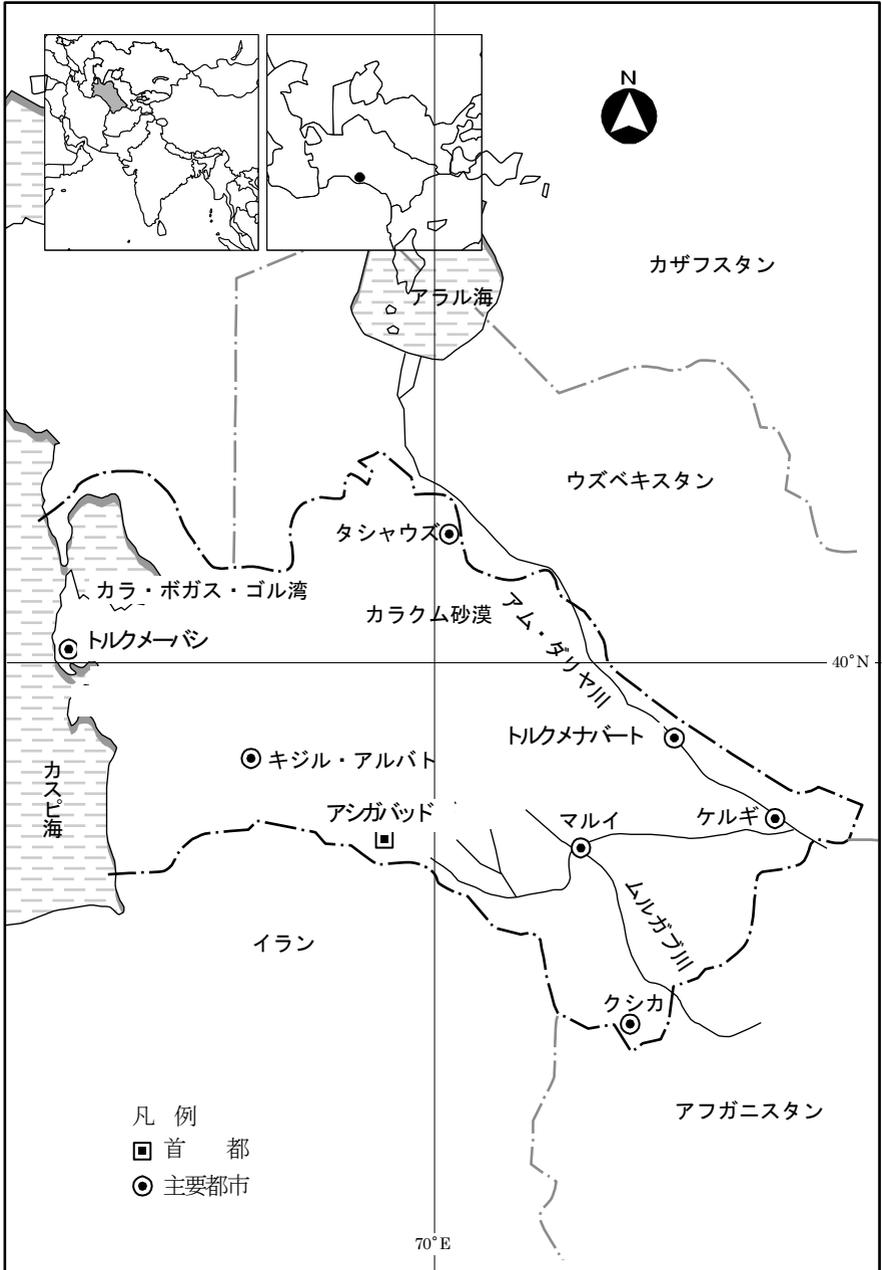


トルクメニスタン



(一般指標)

国名 (英名)	トルクメニスタン (TKM : Turkmenistan)		
国土面積	万 ha	4,881 (日本の1.3倍)	
人口	万人	516.9 人口密度 10.6 人/km ² (2012年)	
首都名(英名)	アシガバッド (Ashgabad)		
首都人口	万人	74.4 (2007年)	
主要言語	トルクメン語(公用語)72%、ロシア語12%、ウズベク語9%		
宗教	イスラム教(大部分がスンニ派) 87.2%、ロシア正教		
国連加盟年月	1992年3月 (1991年10月独立)		
通貨単位	マナト 1米ドル=2.85 (2013年7月)		
国民総所得 : GNI	億米 ^{ドル}	191 (2010年)	
一人当りGNI	米 ^{ドル}	3,790 (2010年)	
主要産業	鉱業(原油、天然ガス)、農業(綿花)		
日本から輸出	億円	216 (2011年) (一般機械92.6%、タイヤ類等)	
日本の輸入	億円	0.5 (2011年) (甘草98.5%、航空機1.5%)	
土地利用	万ha	耕地	191 (4.1%) (2009年現在)
		森林	413 (8.8%) (2009年現在)
		牧場・牧草地	3,070 (65.3%) (2009年現在)
度量衡	不明		
祝祭日	1月1日新年、7日記憶の日、2月19日国旗の日、3月21-22日春分の日、4月水の滴、金の粒の日、競走馬の日、5月8日戦死者追悼日、9日勝利の日、8月メロンの日、10月6日全国服喪の日、27-28日独立記念日、11月17日学生の日、健康の日、収穫の日、12月12日中立の日 等		
気候	国土の大半はカラ・クム砂漠などで、砂漠気候 BW で、河川の多くは水無川である。南・東辺のイラン及びアフガニスタン国境地帯は比較的降雨が多くステップ気候 BS と地中海性気候 Cs になっている。 首都アシガバッド(標高 208m、年平均気温 16.6℃、温量指数 143、年降水量 239mm)		

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	4,127
森林率	%	9.0
森林変動率 (2005-2010)	%	0.0

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	15
ha 当たり森林蓄積	m ³	4

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	0
森林面積に対する割合	%	0.0

(森林所有者)

公的機関	%	100.0
民間	%	0.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	12
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	0

(森林・林業行政組織)

トルクメニスタンでは自然保護省 (Ministry of Nature Protection) が森林に関する中央行政機関である。1999年に森林管理は同省から農業委員会監督下の民間企業に委譲された。しかし、自然保護省は依然として8つの保護地域にある森林を管理し森林火災をモニターしている。

(森林・林業政策)

トルクメニスタンの森林に関する法律として、「森林法」(The Forestry Code) が1993年に制定された。これは旧ソ連の森林法を下敷きにしたもので、これにトルクメニスタンの自然条件を加味して作られている。この法律では、森林は全て国の所有であり(個人で植林したものは除く)、基本的に森林は禁伐であると定められている。

また、森林・林業に関する計画としては、天然資源・環境保護省で造林、特に砂漠化地域、山岳地、灌漑水路沿いの造林についての2~3年の計画がつくられている。

林業分野の課題は森林に関する不十分な情報と前近代的な森林法(1993年)の存在である。

1991年に環境衛生上の理由以外の伐採は禁止された。しかし、依然として違法伐採などにより森林減少が深刻である。このように、現在における林業分野の大きな課題は新たな森林法の策定と実施である。

(森林の現況)

トルクメニスタンの国土面積は48.8百万haで、そのうちの90%は「黒い砂漠(死の砂漠とも呼ばれる)」カラ・クム砂漠が占めている。トルクメニスタンの気候条件は非常に厳しく、イランとの国境地域に横たわるコペット・ダグ山脈でも年間降水量が200~400mm、カラ・クム山脈の中央部では40~50mmで、このような厳しい気候が森林の成立を制限している。

森林面積は413万haで、ほとんどが天然林である。砂漠化地域の天然林の主な樹種はサクサウル(*Haloxylon* spp.)やタマリクス(*Tamarix* spp.)である。山地の森林は79千ha存在し、主な樹種はジャクシン(アルチャ、*Juniperus* spp.)である。また、川沿い森林は33,400haあり、主な樹種はポプラの一種のトゥランガ(*Populus* spp.)となっている。

(人工造林)

トルクメニスタンにある天然の森林蓄積は FRA2010 によると、1 ヘクタール当たり 4m³、総量で 1,500 万 m³ という低いものであり、国土保全等の公益的機能を担っているため、全て伐採が制限されている。従って天然林からは、産業用に利用される木材は基本的に生産されない。ただし例外として、天然林の公益的機能を向上させるための整理伐によって、少量の薪材が生産されている。

トルクメニスタンにおける人工造林の大きな目的は、砂漠化の進展を防止するため森林を復活させることにある。この造林のために砂漠化地帯を中心に、樹木の種子の直播、植林が行われている。主な造林樹種はサクサウル (*Haloxylon spp.*) である。

また、コペット・ダグ山脈の麓では山地の土壌流出を防止するための環境造林が行われている。主な造林樹種は、アルチャ（ビャクシンの一種、*Juniperus spp.*）及びピスタチオである。アルチャは苗畑での養苗期間が長く、山出しするまでに 4 年かかるので、あまり沢山の苗を一度に植えることができない。ピスタチオは果実を食用として利用できるため積極的に植林されている。年間の造林面積は、アルチャが 200～250ha、ピスタチオが 500ha 程度である。

また、平野部の灌漑用水路沿いや旧コルホーズの農場内には、ポプラの造林が行われている。このポプラの造林は 1992 年に開始された。ポプラは早生樹なので 10～12 年で伐採し、最終的には 6,000～6,500 本/ha に仕立て、ha 当たり 800m³ の材積を得て屋根の構造材等、建築用製材を生産することを目指している。

(林産業)

トルクメニスタンでは、天然林からの木材生産は期待できず、造林は基本的には環境造林であり産業造林ではないので、木材加工等の林産業はあまりふるわない。すなわち、木材の伐採は環境・衛生目的においてのみ行われ、年間 30 万 m³ から 50 万 m³ に過ぎない。家具の工場も幾つか存在するが、これらは森林・林業を直接管轄している自然資源・環境保護省の管轄ではなく、地場産業省及び住宅需要製品製造省の管轄である。建築用材や家具材は、主にロシア連邦からの輸入に頼っている。2004 年には製紙工場がオープンしたが、年間 50 万トンの紙生産を行うが、原料は綿、植物、とうもろこしである。

その他の林産品としては、ナッツ類の採取がある。トルクメニスタンの特産である

ピスタチオの実は、豊作の年で20～30トン採取できるが、不作の年はその1/10程度しか採れず、造林用の種子としても足りない場合がある。

また、薬草の採取もある。この分野でトルクメニスタンの特産としては、アルテミジア（レモンのような香りのする香草、ワインの香りづけに用いられる）やエフェドラ（エフェドリンの原料になる）がある。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	—	—	—	—	—	—
1990	—	—	—	—	—	—
1995	—	—	—	—	—	—
2000	3	—	—	0	0	3
2006	10	—	—	0	0	10
2010	10	—	—	0	0	10

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	—	—	—	—
製 材	2.4	187.7	—	—
合 板	—	—	—	—

- 出典：1. World Bank, 2013, Turkmenistan Country Review
(<http://www.worldbank.org/en/country/turkmenistan>)
2. Atamuradov,A., “Turkmenistan”
(<http://www.fao.org/docrep/014/k9589e/k9589e15.pdf#search='Atamuradov%2CA.%2C+Turkmenistan'>)